

# 教会学校 教案ガイド

教師メモやメッセージアウトラインを読む前に必ずディボーションをしましょう。

## 1. みことば

祈りながら今週のテキスト(聖書箇所)を何度も繰り返し読んでください。また、今週の暗唱聖句を決定して、覚えましょう。

## 2. 主題の読み取り

今週のみことばの中心テーマを自分のコトバで、1つの文章にまとめて書きあらわしましょう。

例 ○:イエスさまは、弟子たちがイエスさまを救い主と信じるように  
カナで奇跡を行いました。(×:カナの婚礼と奇跡)

## 3. 教えられたこと

今週のみことばを通して、神さまがあなたに語ってくださったことを書きあらわしましょう。

## 4. メッセージの作成

◇「教師ノート」と「メッセージアウトライン」を参考にしてください。

◇注意深く聖霊さまの導きに従いましょう。

教会教育部公式サイト <http://ce.ag-j.or.jp/>

教会の働きのためにご自由にお使いください。営利目的での使用は禁じます。  
すべての内容の著作権は、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団教会教育部にあります。

# 教師ノート

日付 2016年11月 6日

単元 創世記・4

テーマ 信仰者の結婚

タイトル イサクの結婚

テキスト 創世記 24 章

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

詩篇 25:12

AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)

小上 2 巻 2 題 11 課、小下 2 巻 1 題 11 課、幼 1 巻 1 題 5 課

## メモ(情報・例話など)

「イサクの結婚」の物語は、創世記の他の出来事に比べて、非常に詳しくかつ長い記事になっています。その重要な意味とは・・・

- 1) 歴史的: 旧約聖書の時代、結婚がどのようなものであったかを伝えています。本人同士ではなく、親・兄弟が積極的に参加しているように見えます。しかし、この物語の焦点は、結婚までの全ての過程が、慎重に祈りによって導かれ、神の御手の内にある確信が持てるなら、イサクとリベカのように御心を素直に受け入れることができるということにあります。また、祝福を約束されたアブラハムの子孫イサクですから、その配偶者選びが、歴史的に重要な出来事であったことは言うまでもありません。
- 2) 道徳的: しもべは、主人の思いを第一優先に置き、それを忠実かつ全力をもって行動に表すべきことが語られています。ここに、神が求めておられる忠実な「しもべ」の姿の実例を見ることができるのです(参照ルカ12:37-48,16:10-13,17:10、エペソ6:6、1コリント4:1-3)。
- 3) 霊的: 常に神に信頼し、祈り、導きを求めながら行動すべきことが教えられています。私たちは、日常的に祈り、神との交流をもつように奨められています(ルカ18:1、1テサロニケ5:17)。また、この物語は、信仰をもってささげられる祈りに、神が確かに応えて下さることも強調しています。さらにしもべは、祈りがきかれたとき、心から感謝と賛美をささげています。

☞メッセンジャーは、これらの意味を理解しつつ、ドラマチックに語るができるように準備しましょう。スキットや紙芝居で、効果的に伝える工夫をしましょう。

## □導入

例1:「どっちを選べばいいんだろう・・・」と迷った時に、お祈りしたら神さまが教えてくれた、という経験がある人はいませんか？

例2:あなたは、どんな人と結婚したいと思いますか？美人な女性ですか？スポーツ選手ですか？それともやさしい人ですか？もし神さまが、「このひとがあなたの結婚相手ですよ」と教えてくださったら、どんな気持ちでしょう？

## □ポイント1 アブラハムはイサクの花嫁選びをしもべに任せました(1-10節)

アブラハムは年老いて、息子イサクは40歳になろうとしていました。神は約束どおり、アブラハムをあらゆる面で祝福しておられました。アブラハムはその祝福が彼の子孫まで受け継がれるという約束を信じていたからこそ、イサクの花嫁選びは重要なことだと考えました。この重要な仕事をする「しもべ」とは、召使というより家臣・家令の重要な役職の人のことで、アブラハムから全財産の管理を任されるほど信頼されていました。アブラハムは、カナン人が多神教を信じ、みだれた生活をしていたので、神の民であるユダヤ人との混血を避けるべきと考えました(参照=申命記7:3、出エジプト34:16)。しもべは、しっかりと主人の思いを理解して、アブラハムの故郷へ、花嫁探しに出て行きました。

☞ ももの下に手を置いて誓う＝象徴的に生殖器に触れることを意味し、特別に厳粛な誓いをするときに行なわれた習慣です。神が命を与えることや、アブラハムが割礼をもって契約のしるしとしたことなどに関係があると言われています。

#### □ポイント2 しもべは祈ってリベカを探し当てました(11-27節)

しもべはナホルの町の井戸のところで、まず祈りました。しもべは、テストをしてイサクの結婚相手を選ぶようにはしていません。確かに、旅人だけでなくラクダ10頭に水を飲ませようとするのは、並大抵の親切さ・丁寧さではありませんから、そのような内面的性質を求めていたのも事実でしょう。しかし、しもべは、自分で選ぶのではなく、神が選び備えてくださっている御心の人を、ただ知りたいと願い祈っていたのです。その証拠に、まだ祈り終わらないうちに、リベカが現れ、祈ったとおりのことが目の前で起こった時、驚き興奮したはずですが、しもべは、最後まで黙って、慎重に神の御心を確認することに専念しました。神が、内的条件(親切・優しい)も外的条件(美しい・未婚・アブラハムの親族)も、期待していた以上にイサクにピッタリな結婚相手に導いてくださったので、しもべはひざまずいて、神をほめたたえました。

☞ 系図＝ナホルはアブラハムの兄弟(イサクのおじ)、ミルカはアブラハムの姪(イサクのいとこ)。ベトエルはナホルとミルカの子。ベトエルの子がラバンとリベカ。

☞ しもべは単に「しるし」を求めているではありません。聖書は、神を疑い、試みるためにしるしを求めることについては否定的です。しかし、このしもべのように、御心を必死で求める者に神は哀れんで導きを明らかにして下さいます(例:ギデオン、トマス)。しるしを見ないと信じられないのはよくありませんが、神は私たちに、自分の頭で悩み、迷ってばかりの信仰生活を送るよりも、思い切って神にしるしを求め、確信をもって歩むクリスチャンになって欲しいと願っておられます。

#### □ポイント3 リベカはイサクとの結婚を決めました(28-67節)

リベカの家へ招かれたしもべは、父ベトエルと兄ラバンに、すべての経緯を話しました。それで皆、この結婚が神の導きであることを確信しました。家族はなごりおしくなり、出発を遅らせようとしたのですが、リベカは信仰をもって、旅立ちの決心をします(アブラハムが約束の地に旅立った時と比較)。イサクとリベカは、結婚までの全ての過程が祈りによって導かれ、神の御心だという確信が持てたので、結婚しました。☆リベカの気持ちを想像しよう。会ったこともない人と結婚するために、見知らぬ地に旅立ったのです。また、待っているイサクの気持ちも想像してみよう。

□結論 神さまは、アブラハムのしもべを、お祈りしたとおりのイサクの結婚相手に導いてくださいました  
暗唱聖句を読み上げます

#### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

- 1) 神さまは、イサクにふさわしい結婚相手を備えておられ、みこころがわかるように、アブラハムのしもべを導いてくださいました。あなたは「神さまの計画通りに歩みたい」、「御心のものをゲットしたい」と心から願っていますか？御心を求める人になろう！
- 2) 神さまを信じ、御心に従って生きようとしても、何が御心か、どうすれば神さまに喜ばれるのか、分からなくなってしまうことがあります。それでもあきらめないうちに、祈り求める信仰を持ちましょう。特に、重要な選択(将来の部活・進学・就職・結婚など)の時には、御心の方向へ導かれるように慎重に祈ろう！聖霊さまが必ず導いてくださるよ！神さまは、あなたにすばらしい計画を備えてくださっています。
- 3) しもべは、主人の思いを第一優先に置き、それを忠実かつ全力をもって行動しました。あなたも、イエスさまの御用をするしもべです。イエスさまの思いを第一にし、小さなことにも忠実に一生懸命取り組む人になりましょう。
- 4) リベカのように人のために親切で丁寧な対応ができる人になりましょう。頼まれたこと以上に与えられる人になりましょう。

# 教師ノート

日付	2016年11月13日
単元	創世記・4
テーマ	神の計画と人間の計画
タイトル	祝福を横取りしたヤコブ
テキスト	創世記 25:19-34、27:1-41
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 箴言 19:21
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小下 2 巻 3 題 1 課、小下 2 巻 3 題 2 課、小上 2 巻 2 題 11 課
□導入	興味を起こす質問をしましょう。 例1:お友だちや兄弟が持っているものを自分も欲しくなったら、あなたはどうしますか?おやつや、おもちゃの数が少ないとき、横取りしたり、されたりしたことはありますか? 例2:あなたは、「いつも長男(長女)ばかり怒られる」とか、「弟(妹)はいつも兄(姉)に負けるから損だな」とか思ったことはありませんか?長男(長女)に生まれて、いいことって何でしょうか?
☞	長子の特権:旧約時代、長子は、父の立場を受け継ぎ、子孫を絶やさないという重大な責任をもっていましたので、その分、特権も与えられていました。弟たちの2倍の財産を相続することができました(申命記21:17)。ここで、イサクの長子に与えられる特権は、お金や地位の継承だけではなく、霊的にも重要なものです。アブラハムに与えられた契約(神の民としての霊的祝福)を受け継ぐ権利を含みます。
□ポイント1	ヤコブは長子の特権が欲しくてエサウから奪いました(25:19-34) リベカは約20年間妊娠できませんでしたが、イサクの祈りがきかれ、双子の赤ちゃんが与えられました。23節で神はリベカに、お腹にいる双子が将来2つの国民として増え、互いに争うことを伝えられました。お腹の中での争いは、そのまま外の世界で続きます。また、「兄が弟に仕える」とはっきり宣言されています。弟が神の契約の民になることは、神が初めから選んでおられたのです。この後展開するヤコブの人間的な計画や能力とは関係ありません。エサウは外で活発に働く獵師、ヤコブは穏やかで天幕で家畜の世話をする人となりました。イサクがエサウを、リベカがヤコブを偏愛したことは、この後のストーリーにも深く関わってきます。 獵から帰ってきたエサウは飢え疲れて、ヤコブに煮物を求めます。ヤコブは兄弟として、エサウの必要に素直に応えるべきでしたが、彼は長子の特権との交換を要求しました。大切な経済的・霊的・長期的祝福を、その場の一時的な空腹を満たすためにあきらめるように迫るなんて、なんと卑劣な打算でしょう。しかし驚くべきことに、エサウは承諾し、ヤコブは長子のもつ相続の特権を手に入れました。財産相続はともかく、エサウは神の霊的祝福を軽視してしまったのです。(ストーリー展開のわかりやすい要約はAG教案小学下級第2巻「長子の特権を売るエサウ」参照)
☞	ヤコブとエサウの争いは後の旧約を通してのイスラエルとエドムの争いとして継続されます(例:民数記20:14-21、1サムエル14:47、2サムエル8:14、2列王記8:20-22)。
□ポイント2	ヤコブは父イサクをだまして、エサウの祝福を横取りしました(27:1-29) イサクは(視力が悪くなったというより)目が見えないほど体が弱ってきました。死を前にして遺言を残そうとします(実際にはあと数十年生きましたが)。それを聞いたリベカが、何とかヤコブに祝福を得させようと、すばやく作戦を実行しました。ヤコブも本当にそれで成功するのかと躊躇しましたが、母の言うことに従いました。(話の流れについてはAG教案小学下級第2巻「父をだますヤコブ」)参照。イサクは、

ヤコブをエサウだと思って祝福の祈りをささげました。これは、遺言であると同時に必ずそのようになる預言的な祈りでもありました。それを通して神がアブラハム-イサクと契約された祝福が、ヤコブへと受け継がれました。

☞26章はテキスト範囲に含まれていませんが、メッセンジャーは必ず読みましょう(特に34-35節)。

### □ポイント3 ヤコブは家を出ていかなければならなくなりました(27:30-45)

そこへエサウが帰ってきました。ヤコブが父をだまして祝福を奪ったことに気付いた時、ショックのあまり、イサクは「激しく身震いして」、エサウは「大声で泣き叫び」ました。当然、エサウは自分も祝福して欲しいと何度も頼みました(34・36・38節)。しかし、それはできませんでした。イサクは父として子どもを祝福する祈りをする権威を与えられていましたが、祝福を与えてくださるのは神です。それを人間の都合や好みで、「やっぱり取り戻します」とは言えません。エサウは殺したいほどヤコブを憎みました。

### □結論 神様のことを考えないで自分勝手に行動すると大変なことになります

注)この結論は、ヤコブのしたことを神の摂理として肯定する意味ではありません。確かにヤコブは、リベカの策略によって父をだまし、祝福を兄から奪い取り、「兄が弟に仕える」ようになりました。しかしヤコブやリベカの行為が聖書で肯定されているわけではありません。その証拠に、彼らは報いとして苦しみを受けています。リベカは愛する息子ヤコブと生き別れになり、ヤコブもラバンにだまされて苦勞し、その後も悲しみの多い人生を送りました(28-31章、34章、35:19、47:9参照)。また、イサクも自分の偏愛するエサウだけを祝福しようと工作しましたし、エサウも空腹のために長子の特権を売りました。つまり彼らは、4人とも「的外れ」でした。神の計画より、自分たちの思いを優先させようとして、だまし合い、傷つけ合い、家族はバラバラになりました。しかし、神の計画は、それらを超えて進行していったのです。初めから、神はヤコブの行為や性質に関わらず、彼を祝福される計画でした。

暗唱聖句を読み上げます

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)神さまは初めからヤコブを祝福する計画をもっておられました。しかしリベカもヤコブも神さまが祝福して下さる時を待つことができず、自分の考えで悪い計画を実行しました。神さまの計画が一番だということを信頼できなかったのです。私たちは、人間の計画ではなくて、神さまの計画が最高だと信じましょう。神さまが必ず良いことをして下さると信じよう。神さまはあなたを選び、あなただけにスペシャルな計画をもっておられます。それはあなたの行為や能力に関係ありません。ただ、神さまを第一に信頼しよう！そうすれば必ず祝福されます。

例2)ヤコブが、お父さんをだまして兄エサウの祝福を奪ったことは大きな罪です。小さな欲やねたみが大きな罪となり、家族や友だちが憎しみ合う関係になってしまうことがあります。あなたも兄弟(姉妹)や友だちがもっているものをうらやましがって、奪ってやろうと思ってしまうことはありませんか(ゲーム・文房具・アクセサリー・おかし等)?他の人が悲しむのを気にせず、自分が得をすることばかり考えてしまうことはありませんか(自分のやりたいことばかり主張する・少ないおやつを分けないで自分が取る・自分が叱られないように人のせいにする等)?兄弟や友だちの間で、バレないように、何かをごまかしてしまうことはありませんか(お兄ちゃんのケーキを冷蔵庫からだまって取って食べる・弟にゲームで勝たせないようにズルをする等)?「いつもお兄(姉)ちゃんばかりズルい!」とか「弟(妹)はワガママだからキライ!」とか考えるのはやめて、仲良くゆずり合いましょ。

# 教師ノート

日付	2016年11月20日
単元	創世記・4
テーマ	神さまの祝福
タイトル	神さまとヤコブの約束
テキスト	創世記 27:41-28:22
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 創世記 28:15
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	小上 1 巻 1 題 7 課、小下 2 巻 3 題 3 課、幼 2 巻 4 題 13 課
メモ(情報・例話など)	<p>創世記の他のテキストと比較すると、今回の箇所は、それほどドラマ性が豊かではありません。しかし、ヤコブ自身にとって初めての直接的「神体験」のエピソードは、教会の子どもたちに適用すべき要素が豊かに含まれています。ヤコブは、親の信仰は受け継いだものの、神との個人的な関係は強くありませんでした。しかし、彼が人生初めての試練の中で、神の語りかけを聞き、神に従って生きる決心をします。また、罰を受けても仕方がないヤコブに、神は「決してあなたを捨てない」と言って下さいます。</p> <p>□導入 興味を起す質問をしましょう。</p> <p>例1:先週のお話をきいて、あなたはヤコブのことをどう思いますか？立派な人でしょうか？神さまはヤコブのことをどう思っているのでしょうか？</p> <p>例2:みなさんの中で、両親がクリスチャンという人はどれくらいいますか？ヤコブも両親が神さまを信じる人でしたが、旅に出てひとりになりました。ヤコブは神さまを信じ続けることができましたでしょうか…？</p> <p>□ポイント1 ヤコブはエサウの怒りから逃れるために、リベカの兄ラバンのところへ旅立ちました(27:41-28:5)</p> <p>兄エサウはヤコブを恨み、殺したいと考えるほどでした。怒るのは当然と言えるかも知れませんが、それで罪を犯してはなりません(エペソ5:26)。しかも、エサウは長子の特権を軽んじた自分自身の責任をすっかり忘れて、他の人ばかり責めています。母リベカは、エサウが殺意を持っていることを知り、ヤコブをラバンのところへ避難させることにしました。</p> <p>△イサクはヤコブを「花嫁探し」のために送り出しています。でもヤコブが旅立たなければならなかった本当の理由は、エサウの怒りから逃れるためでした。リベカは、「イサクに本当の理由を話しても、ヤコブを去らせてくれないのではないかと考え、結婚問題を理由にしたのです(参照26:34-35)。イサクは、ヤコブにカナン人と結婚して欲しくないという一心で、彼を祝福して送り出しました。結果はリベカの目的のおりになったのです。これまでもリベカは自分の思い通りになるように、様々な工作をしてきました。しかし結局、愛する息子ヤコブと生き別れになるのですから、これまでの彼女の様々な策略は、すべてむなしい結果に終わったと言えるでしょう。</p> <p>☆みんなで考えよう！兄の恨みを買って、家族と離れて旅に出るヤコブの気持ちを想像してみよう。</p>

## □ポイント2 神さまは、ヤコブと彼の子孫を祝福すると約束されました(28:6-15)

これまでの生活と違い、ヤコブは一人ぼっちで、寝る場所さえありません。仕方なく野宿する時の彼の心の内は、自分の将来に神の祝福は本当にあるのだろうか・・・と不安に沈んでいく一方だったでしょう。眠りについてとき、ヤコブは、天と地の間のはしごを天使たちが上ったり降りたりしている夢を見ました。そして神と対面しました。アブラハム・イサクに祝福を約束された神が、ヤコブにもその約束は真実となることを告げられました(ヤコブは約束の地を受け継ぎ、子孫は地のちりのように多くなり、彼らを通して祝福は国々へ伝えられる)。さらに、将来の祝福のことだけでなく、今ヤコブが直面しているニーズについても、主は取り扱って下さいました(「私は、あなたとともにいる。あなたがどこへ行っても守り、この地に連れ戻す」)。ヤコブにとって、これが初めての神との個人的直面でした。彼は、父イサクが神との直接的な関係をもっていたこと(親の信仰)は知っていました。しかし、ここではじめて、彼自身が神と向き合うことになったのです。ヤコブは聖書の中で、神に「私はあなたとともにいる」と言われた初めの人物です。しかも約束を成し遂げるまでずっとともにいて見捨てないとまで言われました。ヤコブが見た夢は、見えない天使が彼を守っていることを示すためのものかもしれません(詩篇91:11-12)。

## □ポイント3 ヤコブは神さまを礼拝し、与えられるものの十分の一を神さまにささげる決心のお祈りをしました(28:16-22)

神との直接的な対面に、ヤコブは感動し圧倒されたに違いありません。彼は、「まことに神がこのところにおられるのに私はそれを知らなかった」と告白しました。そこで、ただちに礼拝をしました。枕にしていた石を柱にして立て、それを神聖なものにするために油を注ぎ、そして誓いをたてました。ヤコブはまさに神を体験したので、深い畏れの念を抱き、真心からの礼拝をささげることができたのです。ヤコブはもっていたものの全てをささげ、今後の収入の10分の1をささげる約束をしました。

☞誓願: 厳粛な祈りと誓い。旧約時代、特に苦難の中にあつた人たちによってよく行なわれた(参照→士師記11:30-39のエフタ、1サムエル1:10-28のハンナ、ヨナ書1:16-2:10のヨナ)。

## □結論 父や兄をだましたヤコブでしたが、神さまは、ヤコブとともにいて守り、彼の子孫を祝福すると約束して下さいました

### □適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) ヤコブは決して立派で正しい人とは言えません。そんなヤコブが祝福され、私たちの先祖となることはショックかもしれません。しかし同時にそれは私たちにとってすばらしい励ましでもあります。神さまはヤコブさえも、愛し、守り、祝福すると約束して下さいました。神さまは、あなたが立派で正しいから愛して下さるのではなく、ありのままのあなたを愛し、祝福して下さるのです。あなたがどんなに道をそれて歩んでも、その約束は決して変わりません。神さまから見捨てられることはないのです。あなたは自分なんか神さまにとって大切なわけがないと思ってしまうことはありませんか? 自分を他の人と比べたり、弱いところを見て失望したりするのではなく、神さまの約束を信じて歩もう! こんな自分は愛される資格がないと感じていませんか? ヤコブさえも用いて下さる主が、あなたを喜んで用いないはずがありません。神さまはあなたにスペシャルな計画をもっておられるのです。

例2) 私たちが絶望のどん底にいるその瞬間も、神はともにいて下さいます。それを信じ続けるとき、神は私たちの人生の内に、最終的には必ずすばらしい計画を成し遂げて下さいます。つらい時、かなしい時、ひとりぼっちを感じた時にこそ、神さまの約束を思い出しましょう。どんな時にでも、祈ったり、聖書を読んだりできる人になろう! 神さまが、あなたに語りかけて下さるよ。

例3) 個人的に神さまと出会うことを求めています。両親の信仰ではなく、自分で神さまを体験できるように、祈りましょう。神さまはヤコブにさえも、そのそばに現れて下さいました。求めれば、神さまは必ずそのような体験をさせて下さいます。

例4) いつも神さまに感謝の礼拝をささげましょう。また、神さまがあなたに何か語って下さったときは(ディボーションや教会のメッセージ)決心のお祈りで応答しましょう。

# 教師ノート

日付	2016年11月27日
単元	創世記・4
テーマ	神さまの守り・神さまの祝福
タイトル	ヤコブとエサウの仲直り
テキスト	創世記 32-33 章
参照箇所	創世記 29-31 章
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 詩篇 118:8	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) 小上 1 巻 1 題 7 課、小下 2 巻 3 題 4 課、幼 1 巻 4 題 8 課	
<b>□導入</b> 興味を起こす質問をしましょう 例1:ヤコブは20年ほどラバンのところにおいて、苦労もたくさんしましたが、結婚して大勢のこどもと、家畜などの財産をもつようになりました。神さまがヤコブに「先祖の国へ帰りなさい」といわれましたが、ヤコブには心配なことがありました…。 例2:あなたは兄弟(姉妹)とケンカした時、すぐにごめんなさいと言えますか?相手があやまったら、すぐに赦すことができますか?赦しあえない間は、お互いどんな気分でしょう? ☞メッセンジャーは、29章から31章をよく読み、ヤコブがエサウの家を出てからどのような生活をしたのか、しっかり理解しましょう。	
<b>□ポイント1 ヤコブはエサウを恐れながら帰りました(32:1-20)</b> ラバンのもとを去って、故郷に帰る途中、ヤコブに神の使いたちが現れました。特に記述されていませんが、それをきっかけにヤコブは、帰郷において最大の難関であるエサウとの和解に取り組み始めたのでしょうか。ヤコブは使者を送り、20年間で初めてエサウと連絡をとります。使者はエサウが400人を率いて迎えに来るといふ情報を持って帰ってきましたが、エサウの意図まではわかりませんでした。ヤコブは兄エサウに対し罪悪感をもっており、エサウがまだ怒っているに違いないと思っていたので、復讐をおそれていました。そこで、ヤコブはまず自分の宿営を守る守備的な策を講じ、それから熱心に祈りました。神のあわれみと約束をうたえる祈りは、ヤコブの成長した信仰を表しています。しかしまだ彼の心の中は、信仰と、恐れと、疑いが混ざっていたようです。神に頼るだけでなく、何とかエサウの怒りをなだめようと、綿密な計画をたてました。たくさんの贈り物を先に行かせ、しもべたちに言葉遣いや行列の歩く間隔まで指導し自分は最後に行くことにしたのです。	
<b>□ポイント2 ヤコブは神さまの祝福をいただきました(32:21-32)</b> ヤコブの一行は、川を渡る手前で夜を明かそうとしていました。ところが、ヤコブは夜中に起きて、家族と川を渡りました。そして自分は、反対の岸に戻り、ひとりになりました。	
☆みんなで考えよう!(1)どうして真っ暗な夜に危険をおかして川を渡ったのでしょうか?(応答例:エサウの攻撃をおそれたから。不安で寝ていられなかったから。気が動転していたから。)(2)どうしてヤコブはひとりで反対の岸にもどったのかな?(応答例:ひとりでしっかり祈りたかったから。自分だけ助かろうとしたから。ひとりで静かに眠りたかったから。)→聖書には答えが明確に記されてはいません。 その時、ひとりの人が、ヤコブに現れ格闘になりました。真っ暗で、始めは相手の正体がわからなかったはずですが、しかし、夜明け近くに、ももの付け根の間接をはずされた時、それでも必死で戦ううちに、ヤコブはその人がただの人ではなく、神の御使いだということに気付いたのでしょうか。ヤコブは御使いが去	



ろうとした時、「私を祝福して下さるまで離しません」と言いました。神は、ヤコブに自分の知恵や力に頼るのではなく、神に全てをゆだねることを教えられたのです。自分の弱さを知り、神に頼ることを学んだヤコブは、新しく「イスラエル」という名前を与えられました。この事件は、ヤコブにとってだけでなく、イスラエルの民全体にとっても重要な出来事だったので、その後の彼らの食生活にも習慣を残す程でした。

旧約聖書で人物の名前は、その人の人生を表す大事な意味を持ちます。特に途中で名前が変わる場合には特に重大です(例:アブラハム・サラ等)。ヤコブという名には、「押しのける者」という意味がありました。御使いに「ヤコブです」と名乗ったとき、今までの人生(特に兄への罪)を告白したことになります。しかしそれによって、新しい名前(人生)を与えられました。「イスラエル(神は争われる)」は国の名前となり、ヤコブは契約の民の父として、神とも人とも新しい関係を築きます。

### ポイント3 ヤコブはエサウに受け入れられました(33章)

ヤコブの態度に変化が現れます。エサウと400人の姿を見ても、動揺せず、彼は列の先頭に立って進みました。そして小細工ではなく、真心から兄に礼を尽くしました。7回も地にひれ伏すのは、臣下が王に対してささげる態度です。その態度がエサウの心を動かしたのか、その前から赦していたのか明確にはわかりませんが、エサウは、過去の怒りを忘れ、弟ヤコブを受け入れました。ふたりは抱き合って泣きました。ヤコブは、その後のやりとりでも、終始エサウを自分の主人のように、尊敬して接しています。「私はあなたの顔を、神の御顔を見るように見えています。あなたが私を快く受け入れてくださいましたから」というのも、オーバーなお世辞ではなく、その敬意の表れです。そして同時に、この和解のすべての過程に神が働いてくださったことを信じて、ヤコブは、エサウの笑顔を通して神のあわれみに感謝したのでしょうか。

### 結論 神さまはヤコブに、神さまを頼るべきことを教えて下さり、エサウと仲直りさせてくださいました

ヤコブは今まで、人間的な手段で成功してきました。そしてエサウと再会するときも、色々な手段でエサウの怒りから助かろうとしました。しかし御使いにもものつがい被打れたヤコブは、必死で神に頼ることを学びました。神はそんなヤコブをあわれんで祝福してくださいました。神はヤコブに、新しくイスラエルという名前を与え、エサウと仲直りさせてくださいました。 暗唱聖句を読み上げます

### 適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1)あなたは、人間的な策を考える前に、神さまに頼っていますか？自分の能力や知恵を駆使することは確かに大切なことです。しかし何よりも優先に、神さまの愛と力を求めて頼りましょう。その時必ず心に平安が与えられ、助けが与えられます。「どんなことがあっても神さまがいるから大丈夫！」その信仰を持った上で、自分の精一杯の力を出し切るようにしましょう。(例えば、祈っただけではテストで100点は取れません。勉強するのはあなたです。でも神さまは、あなたの心を不安や恐れから守ってくださいます。その上であなたが全力を尽くせば、集中力を与えてくださったり、覚えたことを思い出させてくださったりして、必ず良い結果を与えてくださいます。)

例2)あなたには、まだ仲直りできていないお友だちがいませんか？ヤコブとエサウのお話は、単なる仲直りのドラマではありません。ヤコブは神さまと良い関係になって、自分がまず変えられたのです。素直にごめんなさいと言える心が与えられるように祈りましょう。「相手の方が悪いのだから、謝る必要は無い！」と思っている人も、もう一度、自分にできることはないか、神さまに聞いてみましょう。

例3)あなたは、ひとりで神さまに向き合う時間をもっていますか？神さまは、あなたのどんな悲しみも全て理解して下さるお方です。「だれもボク(ワタシ)のことわかってくれない！」と思ったとき、心が落ち着かないとき、ヤコブのように、神さまにしがみついても、大胆に自分の気持ちを打ち明けましょう。あなたが人に頼るのではなく、神さまに向き合って相談することは、神さまにとっても嬉しいことなんですよ。そして、神さまがあなたに語りかけてくださる声を聞きましょう。